



現場から（最近のニュースから）

秘密の部屋



哲学者の鷲田清一さんが朝日新聞に毎朝執筆されているコラム「折々のことば」に、小説家の小川洋子さんと臨床心理学者、臨床心理士・公認心理師の東畑開人（とうはたかいと）さんの対談「一人になること、寂しさについて」が2回紹介されていました。

「今の人は一人になることの難しさに直面していると思います。（小川洋子）」

◇誰も外から窺（うかが）い知れない「秘密」の領域を抱えているが、その地下に降りてゆくのは苦しい。だからつい外の情報で気を紛らわすと、作家は言う。こうした領域にあえて分け入らせてもらうことで、心が遠ざかるのではなくむしろ近しく感じるようになればいい。そう希（ねが）って小説を書いていると。東畑開人との対談「一人になること、寂しさについて」（「群像」11月号）から。

（10月24日朝日新聞、折々のことば:3243より）

「自分らしさとか個性というのは変なものであり、居場所というのは、自分が変なままでいられる場所だということです。（東畑開人）」

◇生き延びるためには「誰かとつながる」ことが不可欠だが、他人とは違う自分だけの「秘密の部屋がある」こともそれに劣らず大事だと、臨床心理士は言う。たとえ歪（いびつ）であっても、怯（おび）えることなく歪なままでいられる場所が人には要（ひつ）要（ひつ）ということなのだろう。小川洋子との対談「一人になること、寂しさについて」（「群像」11月号）から。（10月24日朝日新聞、折々のことば:3244より）

人には他人とは違う自分だけの「秘密」があるが、そこに降りて行くのが苦しいので、気を紛らわしている、そこに入って小説を書いているという小川洋子さんと、そのような自分だけの場所が人には必要だという東畑開人さんのことばです。

そのような「秘密」で「いびつ」な自分を、すべての人が持っているということでしょう。それぞれが、それぞれのかたちで持っているのですが、そのような自分を隠したいと思っているので、苦しく、避けたいのだろうと。しかし、そのような自分におびえず、そのままでいられる場所を人は求めているということです。では、なぜ「秘密」「いびつ」の自分がいて、それを隠したいと思うのでしょうか。また、そこでなぜおびえるのでしょうか。その原因が分かるなら、その秘密の部屋を持っていたても、おびえることなく、安らかにいることができます。あなたが自分を隠したい本当の理由があります。そのことについて、一度、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」